

私たちの市の素敵な取り組み

本巣市教育委員会 教育委員 汲田 美枝子

高木貞治博士（明治8年～昭和35年）は、世界的に有名な日本の天才数学者です。博士の生誕の地は、本巣市数屋。本巣市では、「数学のまちづくり」の推進をしています。算数・数学の面白さに出会い、「やってみたい」と興味や関心を高める機会の充実を図っています。私はこうした数学のまちづくりが自慢なのです。

令和4年12月24日（土）第25回本巣市算数・数学甲子園2022（第5回本巣市算数甲子園ジュニア）が開催されました。この日は、あいにくの雪、大変な事です。新幹線で来る方、高速道路で来る方が遅れてしまって・・・大騒動。そのお話を聞いて・・・随分と遠くから参加していただけるのだなあ・・・と、遠方の方までも取り込んでしまう取り組みの斬新さに驚きました。

また、高木貞治博士記念室が設けられているとともに、数学ワンダーランドが設置され、数学の教具に触れることで数学の「楽しさ」や「美しさ」を深く体感、体験しています。

数学のまちづくりアドバイザーである秋山仁氏の講演や中島さち子氏の講演もあります。兎に角、とっても沢山の取り組みがあるのです。令和4年9月23日（金）秋山仁氏の数学のまちづくり講演会がありました。先生は、数学の定理を教具を使って分かり易くお話されるのです。それがとっても面白いのです。この日もそうでした。

私は、マジックをしています。高齢者のふれあいサロンや子ども会等で仲間とマジックをしています。皆様にお見せしているマジックの一つ、メビウスの輪。これがいわゆる「種も仕掛けありません」数学で解決するマジックです。新聞紙で遊ぶことが出来る楽しいメビウスの輪・世界的に有名な日本の天才数学者・高木貞治博士、その理論に少しでも近づくことができました。これもまた秋山先生の講演での道具を使用した解説がなければ気づくことはありませんでした。

私たちの市には、こうした子どもたちを夢中にする素敵な取り組みが一杯なのです。

IT 社会で大切にしたいこと

白川町教育委員会 教育委員 汲田 正敏

最近国内各地で地震が頻発しており、大地震の前触れではないかと危惧されています。IT 社会であっても、地下深くで起きていることはほとんどが推測でしかないという状況です。また、同じように自然界のこともほとんどが判明していないことばかりです。

IT 社会といえども、これから何が起きるのか予測困難ということです。大切なことはどのように対応したらよいか、日頃から備えておくことと、何か起きた時に ICT 機器を利用し正確な情報を把握することではないかと思えます。

さて、令和元年に GIGA スクール構想が発表され、児童生徒に一人一台のタブレット端末が配置されました。いきなりの発表で戸惑った方もあったことと思えますが、日本のデジタル化は先進国の中では遅れているといわれています。折しも新型コロナウイルスの出現により、オンライン学習の必要性が高まり、いやおうなしにデジタル化へと舵がきられました。

タブレット端末が配置されたからといって、すぐに効果があるものではなく、教師や児童生徒が使用方法やメリットとデメリットを正しく理解することが重要だと考えています。配置からまだ2年ほどしか経過していません、これからの実践研究が大切だと思います。

話が変わりますが、私の事務機器との出会いは、1970年代のガリ版印刷とそろばんから始まり、1980年代は和文タイプライターと電卓、1990年代はワープロ、2000年代はパソコンと、ほぼ10年毎に目覚ましい進歩をとげました。

中でも2000年代からインターネットと携帯電話の機能が一緒になったスマートフォンの出現により、世界が大きく変わりました。科学の進歩に合わせた対応が求められています。

学校教育でもデジタル化の影響は大きいわけですが、すべてのことをデジタル化できるはずはありません。人として必要な基礎基本である、コミュニケーションや道徳・文化芸術・スポーツなどデジタル化できないことも沢山あることを理解したうえで、デジタル技術を活用した新しい学びを創造することが大切ではないでしょうか。